

口腔にある舌や頬、歯肉などは、全て重層扁平上皮という厚い粘膜で覆われています。口腔がんの大半はこの粘膜にできる扁平上皮がんです。舌に最も多く、次いで歯肉や頬に発生します。がん全体の1%程度とまれな病気ですが最近、芸能人が舌がんになったことを公表し、急に関心が高まりました。

知りたい! 治療の最前線

◇19

口腔がん

一口メモ

口の中を専門用語で「口腔」と呼び、そこのできるがんを「口腔がん」と言う。日本では、高齢化とともに罹患(りかん)数や死亡数は増加傾向にある。県内では、一部の自治体で「口腔がん検診」が始まった。全国的にも、口腔がんを啓発する活動は広がりを見せている。

抗がん剤 動脈投与



歯肉のがんに対する動注化学療法(青みがある部分は抗がん剤を入れる領域)



治療後の口腔内。がんが完全に消失した



上顎に発生したがん



免疫治療薬で消失した



富原 圭

富山大附属病院
顎口腔外科 特殊歯科准教授

口腔がんは、初期の段階ではあまり自覚症状はありません。進行すると潰瘍や硬いしこりがあり、出血や痛みが伴う場合があります。さらに進行すると、顎の下や首のリンパ節、さらには肺や肝臓などに転移することもあります。

口腔がんの見た目は、粘膜の表面が白くなるものや赤くなるものなどさまざまです。

また、口腔粘膜の一部が白くなる白斑症など、将来的にがんになる可能性のある「前がん病変」と呼ばれる病気もあって、専門家でも口内炎などとの区別がつきにくい場合があります。「口内炎がなかなか治らない」と思っていたら、実は口腔がんだったということがあります。

免疫療法も有効

基本は手術による切除ですが、がんが発生した場所や大きさによっては、手術をせず放射線や抗がん剤だけで治るものもあります。

富山大附属病院では、放射線治療科と連携して「動注化学療法」という治療を積極的に取り入れています。この治療法は、がん栄養を供給している動脈にカテーテルを挿入し、抗がん剤をがんに直接流し込む方法で、がんに対する直接的な効果が優れているのが特徴です。ただ進行している場合は、舌や顎の骨などに大きく切除しなければなら

飲酒、喫煙が原因

口腔がんの原因として、「アルコール摂取」や「喫煙」など「適合の悪い真菌や虫菌などによる口腔粘膜の慢性的な刺激」が考えられています。ちなみに、かみタバコの習慣がある南アジア諸国は、他の地域に比べて、口腔がんの発生率ははるかに高いことで知られています。

このように、口腔がんの治療は近年目覚ましく改善しましたが、再発や転移をする怖い病気でもあります。最近、がん細胞を狙い撃ちにする分子標的薬や、日本人のノーベル賞受賞で一躍有名となった免疫治療薬が、再発や転移がんの一部で保険適応となり、効果的な場合があります。しかし、何よりも重要なことは、早期発見と早期治療です。

検診で早期発見

予防医療に積極的な欧米諸国では「口腔がん検診」の普及率が高く、日本と比べて口腔がんの死亡率も減少傾向です。日本でも最近、口腔がん検診を取り入れる自治体が増えてきました。口腔内は、特別な検査機器を使わずに肉眼で診察が可能です。口腔がんは、初期であればほぼ100%完治する病気です。口の中で気になる症状があるときは、迷わず受診することをお勧めします。

◇ 次回19日に掲載します。